

2019年 5月13日
京成電鉄株式会社

安全性と輸送品質の更なる向上を目指して

2019年度 鉄道事業設備投資計画

昨年度実績比36億円増(+19%)の総額227億円

京成電鉄(本社:千葉県市川市、社長:小林 敏也)では、2019年度、鉄道事業で総額227億円(昨年度実績比+36億円(19%増))の設備投資を実施します。

本年度は、お客様により安全・快適にご利用いただけるよう、鉄道施設の強靱化や機能向上などの安全対策の強化、空港輸送の輸送力増強、新型車両の導入や駅施設のリニューアル、バリアフリー化工事などのサービス向上に取り組めます。

詳細は別紙のとおりです。

<概要>

(1)安全対策の強化

- 塩害対策として、高圧配電線ケーブルヘッドの耐塩化を進めます。
- ホームドアの設置や内方線付点状ブロックの整備など、ホーム上における安全対策を進めます。
- 駅舎・橋脚の耐震補強工事や法面補強工事を進めます。
- 踏切自動障害物検知装置の高規格化など、踏切事故対策を進めます。
- 押上線 葛飾区内(四ツ木駅～青砥駅間)の連続立体交差事業を進めます。
- 駅や車内に防犯カメラを新設・増設します。

(2)輸送力の増強

- スカイライナー(AE形)車両を1編成増備します。

(3)サービスの向上

- 新型車両の3100形を新造します。
- 駅施設のリニューアル及びバリアフリー化を進めます。
- 駅待合室の設置及びトイレのリニューアルを進めます。
- 車内におけるお客様案内の多言語化を進めます。
- 通勤型車両へのスタンションポールの増設を行います。
- 京成アプリのバージョンアップを行います。

(別紙)

2019年度 鉄道事業設備投資計画について

1. 投資額

227億円（昨年度実績比+36億円(+19%)）

2. 主な取組み

(1)安全対策の強化

① 安定輸送対策

昨年発生した塩害への対策として、高圧配電線のケーブルヘッドを耐塩型に交換する工事を進めています。本年6月までに全線で交換を完了します。その他の対策についても検討を進めます。

② 駅の安全対策の強化

●ホームドアの設置

駅ホームからの転落や列車との接触による事故を防止するため、成田空港駅にホームドアを設置します。[※]また、その他の駅においても、ホームドアの導入に向けた検討を進めます。

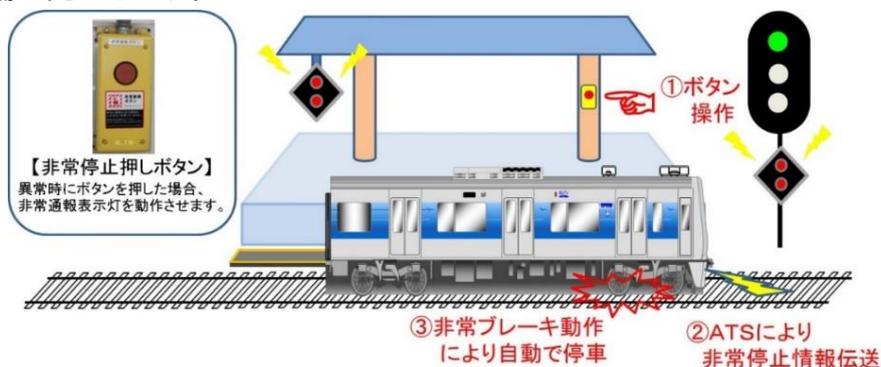
[※]成田空港駅の鉄道施設を保有する成田空港高速鉄道(株)が事業主体となります。



▲日暮里駅上りホームのホームドア

●非常停止ボタンのC-ATS連動化

ホーム上の非常停止ボタンをC-ATS(列車自動停止装置)と連動させ、非常停止ボタンを押した際に自動的に列車が停止する改修工事を2017年度から進めてきましたが、本年度にて全駅で整備が完了します。



▲非常停止ボタンのC-ATS連動化イメージ

●内方線付点状ブロックの敷設

視覚に障害をお持ちのお客様が駅ホームから転落する事を防止するため、ホーム内側部分に線状の突起を付け、ホームの内外を知らせる内方線付点状ブロックを西登戸駅等に設置します。



▲内方線付点状ブロック

●防犯カメラの新設・増設

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、京成上野駅、空港第2ビル駅等に防犯カメラを増設するほか、通勤型車両の車内に防犯カメラの設置を進めます。

③ 耐震補強工事

大規模地震への対策として、駅舎(京成西船駅等)、橋脚(千葉中央駅～千葉寺駅間等)の耐震化に引き続き取組みます。



▲お花茶屋駅 耐震補強工事の様子

④ 法面補強工事

集中豪雨などにより法面(線路脇斜面)の土砂が流出することを防ぐため、宗吾参道駅～公津の杜駅間の法面補強工事を実施します。



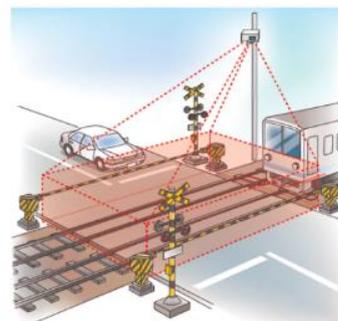
▲京成臼井駅～京成佐倉駅間

⑤ 鉄道施設の更新・改良

安全性の維持・向上のため、各種鉄道施設の計画的な更新・改修工事を実施します。
踏切設備については、より検知精度の高い踏切自動障害物検知装置への更新を進めるとともに、踏切監視カメラの更新等を進めます。

また、従来の方式と比べて音質が良く、文字での情報伝達も可能なデジタル方式の列車無線装置への更新を進める他、昨年度着手した成田空港駅、空港第2ビル駅の天井落下防止工事を完了させます。

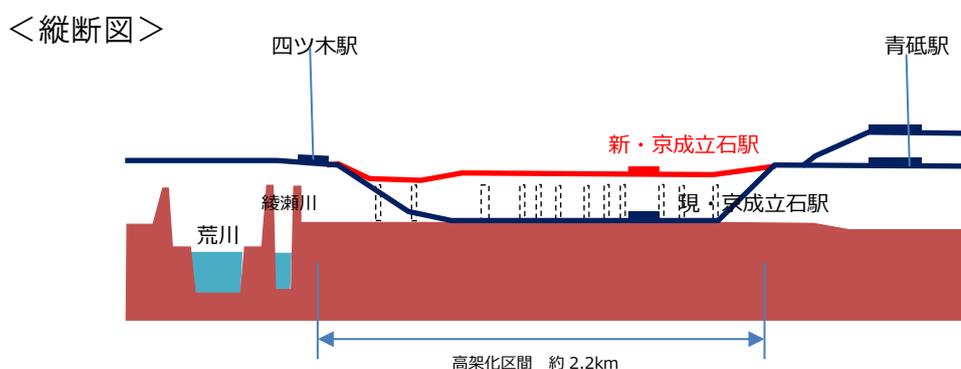
さらに、変電所の設備機器更新などを実施し、安定的な電力供給を図るとともに、線路の下に撒く碎石の厚みを増す工事や、軌道変位が生じにくいマクラギ(ラダーマクラギ)への交換などを実施し、運転保安度の向上並びに乗り心地の改善を図ります。



踏切自動障害物検知装置による検知のイメージ▲

⑥ 連続立体交差事業の推進

押上線葛飾区内(四ツ木駅～青砥駅間)の連続立体交差事業について、仮下り線工事を進めます。この事業が完了すると、平和橋通りなどの沿線にある11カ所の踏切が除却され、道路・鉄道それぞれの安全性が向上するほか、踏切による交通渋滞が解消します。これに伴い、これまで鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることができ、魅力あるまちづくりが推進されます。



(2) 輸送力の増強

スカイライナー(AE形)車両の増備

スカイライナー(AE形)車両(8両×1編成)を増備し、成田空港輸送の輸送力を増強します。
なお、具体的な輸送力増強の内容については、決定次第お知らせします。

(3)サービスの向上

① 新型車両新造

成田スカイアクセスに新型車両の3100形(8両×2編成)を導入します。

この車両の外観デザインには、成田スカイアクセスの案内カラーであるオレンジを初めて取り入れており、同線を走行することをより分かりやすくし、京成本線との誤乗車防止を図ります。また、デザインのアクセントとして飛行機や沿線各所のイメージイラストを車体に描きます。

車内設備では、スーツケース置き場としてもご利用できるよう、座席の一部を折り畳み式とするほか、車内セキュリティ向上を目的に防犯カメラを設置します。さらに、快適な車内環境を提供するためプラズマクラスターイオン発生装置の導入や中間車両へのフリースペースの設置を行います。



▲新造する3100形車両(イメージ)

② 駅施設リニューアル工事

● 空港第2ビル駅・成田空港駅リニューアル

お客様の増加に対応するため、空港第2ビル駅改札口のレイアウト変更並びに24人乗りの大型エレベーターを新設します。また、案内看板をより分かりやすいものに改修するとともに、天井改修工事に合わせて空港第2ビル駅及び成田空港駅の照明をLED化します。



▲リニューアル後の入り口改札(完成予想図)

●京成上野駅連絡地下通路リニューアル

京成上野駅と東京メトロとの連絡地下通路をリニューアルします。

●駅の内・外装改修

京成西船駅等の駅舎の内・外装を改修します。

③ 駅のバリアフリー化

八千代台駅にエレベーターを増設します。

④ 待合室設置工事

京成幕張本郷駅に待合室を設置します。



▲京成成田駅の待合室

⑤ 駅務機器の利便性向上

現在磁気券でのみ発売している「下町日和きっぷ」等の企画乗車券について、ICカード乗車券「PASMO」で購入できるようにします。

⑥ お客様案内の多言語化

3000形車両のLED車内案内装置について、全編成で4か国語(日・英・中・韓)対応の液晶ディスプレイ(LCD)への更新を進めており、本年度に全編成で更新が完了します。



▲多言語案内可能な17インチの液晶ディスプレイ

⑦ 通勤型車両へのスタンションポールの増設

3400形車両、3000形車両について、立席のお客様の支えとなり、着席しているお客様が立つ際に利用することもできるスタンションポールの座席中央部分への増設を進めており、本年度に全編成で増設が完了します。



⑧ 京成アプリのバージョンアップ

昨年度配信を開始した京成アプリについて、利用者のご意見等を踏まえたバージョンアップを行います。

以 上